## 東京にいていつも思うこと

高村光太郎の「智恵子抄」にこんなくだりがあります。

「智恵子は東京に空が無いという

ほんとの空が見たいという

私は驚いて空を見る」

いつも感じることは、忍耐の限度を超えた人の密集とそれに伴う閉塞感です。

私は、普段は地方都市に住んでいますが、商用で頻繁に上京する機会があります。そのとき

高村光太郎の妻、智恵子が感じた「東京に空が無い」と同じように、私は、上京するたびに

「東京には青空のような解放感が微塵も感じられない」と思います。 閉塞感漂う雰囲気は、特に平日の通勤ラッシュ時の電車内に感じられます。通勤に向かうビ

ジネスパーソンの表情は、おしなべて陰鬱で、幸福感が感じられません。2020年初頭から 始まったCOVID-19のパンデミックにより、人の往来が減少した時期もありましたが、そ

の時期でさえも、閉塞感と人々の幸福でない印象に変わりはありませんでした。

ないのだなあと痛感します。 私が閉塞感と、幸福とは思えない人々の表情を感じるたび、日本での「地方創生」は進んでい このような感想は、多分に私の思い込み、勝手な解釈が入っているかと思いますが、

数値目標を挙げましょう。 は、2020年までの数値目標が掲げられています。例として東京への転入人口と転出人口の 上げることを目的とした、安倍元内閣の政策の1つです。2014年から始まったこの政策に 地方創生とは、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を

圏への転入者は転出者を41万8783人上回る転入超過という結果になっています。この数値 いました。それに対し、2020年1月31日に総務省から発表された人口移動報告では、東京 (2014年は1732人増加)、東京圏から地方への転出を4万人増という目標が掲げられて 地方創生政策の2020年までの数値目標には、地方から東京圏への人口転入を6万人減

政府の数値目標は達成できていないことになります。 は3年連続増加しています。つまり、こと東京圏への転入者減、東京圏からの転出者増という

東京にここまで人口が集中するのは、さまざまな要因がありますが、多くの企業が東京に本

社機能を構えていることは、大きな要因の1つです。巨大な雇用が創られているからこそ、人

しているからと思います。 が集まるのでしょう。翻り、 地方から人が転出するのは、 地方に働き口がないか、著しく減少

を創出し、 を多数増やすことこそが、本当の意味での「地方創生」を実現する本質的な戦略ではないかと 地方で雇用が創出されること、 地方に人を呼び込み、 増加する人々の生活を保証するだけの環境の構築を担う企業 雇用を創出する企業が地方に存在すること、そのような雇用

思います。

潤すだけでなく、地域外や海外にも市場を広げるような企業の取り組みを紹介します。そして、

本書は、地方に本社機能を置き、地方での雇用を創出し、かつ、拠点を置く地方の経済圏を

例を記述します。 これらの企業は、社員の幸福度を上げるだけでなく、地域に住む人々の幸福度を向上させた事

の取り組みから、本当の「地方創生」を可能にする施策を考えるきっかけとなり、 このような企業を私は、「地域再生企業」と名付けました。本書が紹介する「地域再生企業」 企業経営の

ヒントになれば、著者としてこれほど嬉しいことはありません。

2022年6月

松岡 孝敬

地域を輝かせる企業とそのあり方地域再生企業

目

次

4	3	2	1	第 1 章	8	7	6	5	4	3	2	1	序章	はじめに
地域住民のコミュニティの活性化によるもの 30	地域の特産品や地域そのものをブランド化するもの 26	地域の資源を活用した新たな企業を興したもの 22	地域に根差した企業の経営活動を主としたもの 22	地方創生の取り組み	地域を持続的に繁栄させる地域レジリエンスとそれを支える地域再生企業 15	地方創生を成功させる条件と地方創生をけん引する企業 14	地方創生の現状と課題 12	農山村地域の機能と存在価値 9	増田レポートへの批判論に基づく政策 7	増田レポートへの批判 4	増田レポートによる処方箋 3	増田レポート 2	地方創生はなぜ始まったのか	に 東京にいていつも思うこと

5

政府の方針に沿ったコンパクトシティを構築するもの

32

6	大都市圏から地域への移住を促進するもの 34
7	観光業振興を主とした観光客の増加を促すもの 36
8	大企業の移転によるもの 38
9	地方創生の取り組みを評価する軸とは 38
第 2 章	いろどり― 高齢者の生きがいを創る葉っぱビジネス 43
1	葉っぱを売るビジネスの誕生 4
2	地域資源を生かした上勝町のその他の事業 55
3	株式会社いろどりによる上勝町地域再生の成功要因 59
第 3 章	中村ブレイス―かつてのハイテクの町を再生した世界屈指の技術 69
1	大森町の名家に生まれ、義肢装具士として世界にはばたく 70
2	中村ブレイスの歩みと活動 75
3	中村プレイスによる大森町地域再生の成功要因 84
第 4 章	やねだん―感動と感謝による行政に頼らない地域再生
1	自主財源づくりと人の和の拡大で地域再生 92
2	アーティストを呼び寄せ、海外にもファンを拡大する「人の和」 99

				終				第 6 章				第 5 章	
5 4	3	2	1	章	3	2	1	章	3	2	1	章	3
独創的なアイデアを創造する心理的安全性 154地域資源を有効活用する体制 153	理念と技術を継承する人材育成のしくみ 152	大局的な他者貢献、地域貢献を前提にした利他的なリーダーシップ 47	地域を愛する文化と企業活動によって地域活性化に貢献しようとする理念 46	地域再生企業の条件	平田観光農園の地域再生の成功要因 140	平田観光農園の歩み 135	創業者、平田克明氏の半生 132	平田観光農園―観光農園の先駆者として地域を活性化	能作の地域再生の成功要因 124	能作の `しない、経営戦略 115	鋳物職人の地位を取り戻す-能作克治氏の挑戦 11	能作―もの・こと・こころを融合し、伝統産業の轍をつけ続ける、踊る町工場、 10	やねだんの地域再生の成功要因 102

おわりに	参考資料	8	7	6
地域再生企業から思うこと	161	地域再生企業の成立条件 160	ウェルビーイングと地域レジリエンスからの評価 155	地域外から人を呼び込む風土としくみ 155

再生し、

持続的に繁栄させる体制とそれを支える企業(地域再生企業)の条件を抽出します。

## 章 地方創生はなぜ始まったのか

序

政策の現状と課題を論述し、地方を活性化するために必要な要因を導きます。さらに、地域を ポート」が発表されてからでした。そして、その言葉が頻繁に世に出たのは、2014年9月、 への批判と批判論者が唱える「地方創生」の政策、政府が2014年から実行した「地方創生」 課題を記します。「増田レポート」に記された「地方消滅」の分析と処方箋、「増田レポート\_ に、「地方創生」政策の契機となった増田レポートの要点を紹介し、「地方創生」政策の現状と 第2次安倍改造内閣の発足時、安倍晋三首相が政策のひとつとして発表されてからでした。 本章では、九州大学大学院法学研究院准教授、嶋田暁文氏の『「増田レポート」再考』を基 - 地方創生」という言葉が巷間注目され始めたのは、2013年12月、いわゆる「増田レ

## 1 増田レポート

事で締めくくられています。一連の記事の内容は、増田氏の著書、「地方消滅」にまとめられ 2013年12月号に掲載された記事から始まり、同じ「中央公論」2014年7月号の特集記 ています。 本の人口減少への問題提起を起点に展開された文書の総称です。それらの文書は、「中央公論 増田レポートとは、元岩手県知事で、元総務大臣である増田博也氏を中心に作成された、日

あります。将来、523もの町が消えてなくなるというレポートは、社会的反響が極めて大き 推計人口が1万人以下の523の市町村については、「消滅する市町村」と指定されたことに 市896」として、896の市町村がリストアップされ、さらにその中のうち、2040年の かったですね。 当時、増田レポートが大きなインパクトを持って世間の耳目を集めたのは、「消滅可能性都

ひと・しごと創生法」(以下、創生法と略します)が成立され、「地方創生」の実現に向けたさ 目的に「地方創生」 衝撃的な増田レポートを受け、政府は、「人口減少の歯止め」と「東京一極集中の是正」を の政策を推進するようになりました。2014年11月21日には、「まち・